

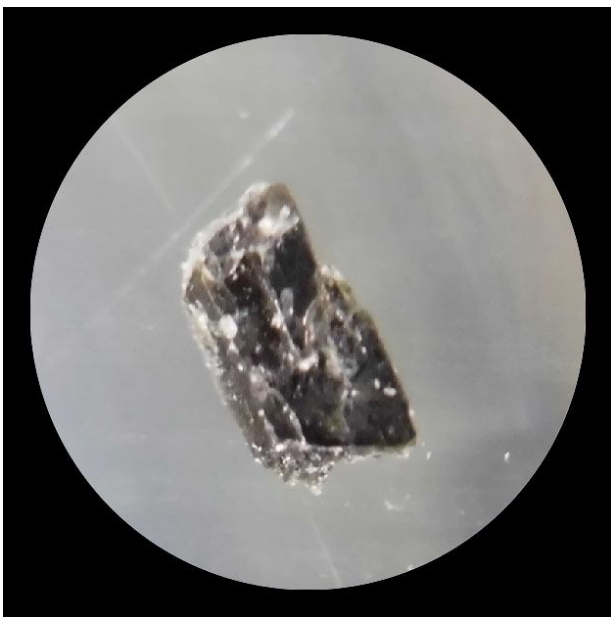
「鹿沼土の中の造岩鉱物(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

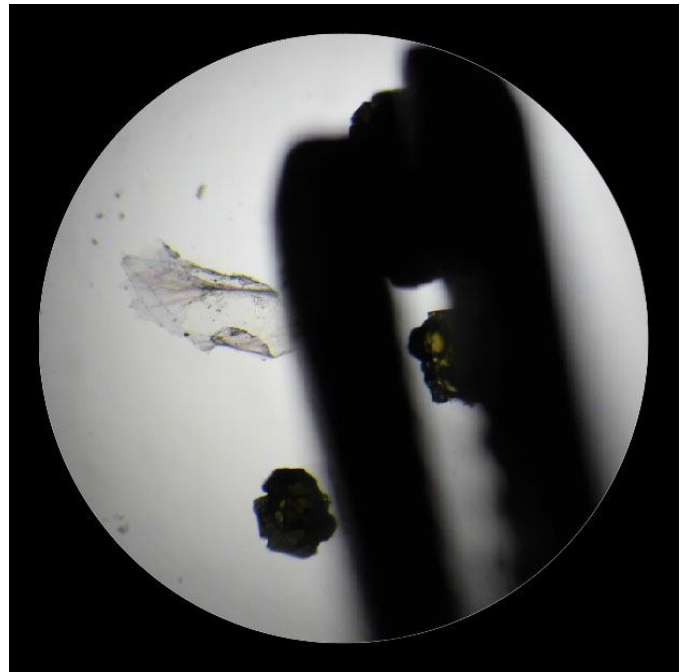
鹿沼土に含まれる鉱物の結晶は、火山灰由来のものとしては比較的大きなものが多い。これは主な噴出元の赤城山からの距離が近く、大きな粒の鉱物が落ちた結果だろう。火山灰は大きな粒ほど火山の近くに集中し、小さな粒ほど遠くまで飛ばされる。



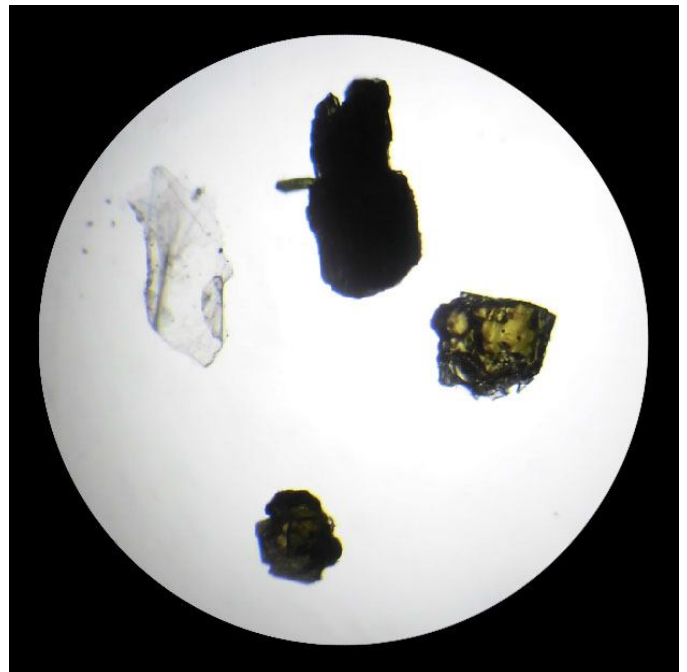
これは「角閃石」の結晶である。反射光でも透過光でも黒く見えること、縦に縞模様のあるやや長細い結晶が特徴だ。



これは「輝石」の結晶である。反射光では黒く見えるが、透過光では美しい深緑色に見えるのが特徴だ。



観察中に「ピンセットを貸してください」という申し出が多かった。何をするのか見ていると、顕微鏡を覗きながら鉱物の結晶を一粒ずつより分けている。



これがその結果だ。上から時計回りに「角閃石」「カンラン石」「磁鉄鉱」「火山ガラス」とわかる。この作業はたちまち「流行」して、区別できた鉱物結晶は、小さなポリ袋に入れて持ち帰る姿も見られた。

【子どものふり返しから】

「鹿沼土の観察で学んだこと・・・こんなオウド色(黄土色)のつぶから、きれいな鉱物がたくさん出てきて、おどろいた。特に、輝石や火山ガラスが多かった。火山灰は鉱物の集合体(?)ということがよくわかった」